協同労働の協同組合は,共に生き,共に働く社会をめざして,市民が協同・連帯して,人と地域に必要な仕事をおこし,よい仕事をし,地域社会の主体者になる働き方をめざします。尊厳あるいのち人間らしい仕事とくらしを最高の価値とします。

かえってきたかんとうかわらばん　No.4

北関東かわら版

KITAKANTO-NEWS

ろうきょう

発行：2016.11.1 発行所：ワーカーズコープ北関東事業本部広報･情報発信プロジェクト 〒336-0018 さいたま市南区南本町 2-5-15M.M ｵﾌｨｽ 201 TEL：048-844-0085 FAX：048-844-0086 E-mail：kitakanto@roukyou.gr.jp

「知り・知らせ・結び合う」自治体行動を今年も取り組みました

ワーカーズコープのことを伝えたい

ワーカーズコープ・センター事業団では、毎年６～８月を「自治体行動期間」として、自治体の施策や方針、今後の取り組みを「知り」、総代会で決定したワーカーズコープの全国方針や事業所や北関東だけでなく全国の活動を「知らせ」、互いに「結び合う」ことを目的として行動しています。

今年は、①全自治体で導入される介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況、②生活困窮者自立支援事業の取り組み状況、③地域型保育事業の設置状況以上３点を聞き、ワーカーズコープの取り組み、特に、市民が自らの手で地域の課題を解決できる「仕事おこし」の方法を、講座を通じて学べる「協同労働プラットフォーム」事業を開催したい事を伝えることを主な目的として行動しました。

併せて、介護保険が２０１８年度に改定されるに際して利用者の自己負担が増えるのを防ぐために「現行の介護保険制度の維持・充実を求める意見書」を各市町村議会から国会へ提出していただくための意見書採択行動も行ないました。

この間の特徴的な動きとして、埼玉北部エリアでは熊谷市、本庄市、深谷市、羽生市、美里町、寄居町などを訪問しました。

埼玉県入間市では、協同労働プラットフォーム事業に興味を持たれた市議の方から、今後も定期的に訪問して情報を教えてほしいと頼まれました。

栃木県矢板市では市長と懇談し、全国の取り組みからもっと積極的に様々な提案をして下さいと言われました。

群馬県前橋市に訪問した際に以前協同労働プラットフォーム事業のことを伝えていた市議の方から、市民協働事業提案のあることを教えて頂き、「プラットフォーム事業」を提案していくことになりました。

美里町では 10/17 に町長と懇談の機会があり、まちづくりについて熱く語っていただき、ワーカーズコープの取り組にも興味を持たれ、何かありましたら協力しましょうと言われました。

この自治体行動を単発で終わらせるのではなく、今後も継続して行うことで自治体との協同の関係を築き、意見交換できる場をつくり出し、私たちが出来ることを見つけて事業提案や仕事おこしにつなげていきたいと考えています。

デイサービス そらまめ 移転しました

3 年前より、もっと広く、もっと収容人数を増やせる家(10 人)を捜し始めましたがなかなか見つからず・・・。あったとしても「ふじみ野市内では 30 万円の家賃です」と言われ、民生委員さんを通して見つかった古民家は改修費が 1000 千万円以上となってしまいました。

団会議で継続か閉鎖かと一人一人の意見を確認、話し合いを重ねました。そらまめしか受け入れる事が出来ない高齢者の方をどうする・・・。福島から来ているおじいちゃんはどうなる・・・。様々な意見が出た結果、やはり皆で頑張ろう！

チラシ配り、おたより作り、協力債を市民の方に呼びかけ、ワーカーズの仲間に出資をお願いしました。

5 年前そらまめ立ち上げ時の協力債のお願いは、ワーカーズを説明し理解して頂くのが大変でした。が社会連帯グループにんじんの活動を 6 年間続け、デイサービス「そらまめ」も 5 年目をむかえた現在、１００%組合員、多くの市民の方、そらまめ利用者の家族などが協力して下さり、お陰様で半分以上の資金が市民の方より集まりました。

今後も地域に根ざした社会連帯活動、良い職場づくりを目指していきます。

こども食堂やってるよ

全国でも注目の集まり、開催場所が増えている「こども食堂」！
北関東事業本部内の事業所でも、活動が広がっています。
このコーナーでは、そんな「こども食堂」の一コマを掲載します。

東浦和　たいむこども食堂ご案内

さいたま南地域福祉事業所:コミュニティ喫茶たいむでは、毎月第１土曜日に「たいむ☆こども食堂」を開催しています。

7/2の第１回の開催より多数の方に参加、ご協力いただき１０／１までに計４回開催することができました。今後も継続して開催予定です。たくさんの皆さまの参加をお待ちしております！

■開催日：毎月第１土曜日　１７時～１９時

■参加費：こども（中学生まで）１００円
大人３００円

■場　所：コミュニテイ喫茶たいむ
川口市柳崎５-１２-２５

■申し込み・問い合わせ先
電話：０４８-４８７-９６３０
ＦＡＸ：０４８-４８７-９９６５
E-MAIL：com-time@roukyou.gr.jp

宇都宮　きずな食堂(こども食堂) 開催

宇都宮地域福祉事業所「きずなのいえ」ではこれまで長期休暇中の小学生を対象にした学習支援を行ってきました。今年の夏休みには学習支援だけではなく「きずな食堂」と題してこども食堂を合わせて実施しました。この取り組みは一般社団法人日本社会連帯機構助成事業の一環として行われたものです。

夏休みの宿題を午前中に片付け、お昼は食堂に早変わり！料理の得意な組合員の作った美味しい食事をいただきました。

こちらの地域は小学生など子供の多い地域です。

今回は二日間だけの開催でしたが、今後は地域のニーズなどを調査し、定期的な活動につなげていきたいと考えています。

フードドライブやってるよ！

越谷市　地域・市民と連携し、フードドライブを実施！

越谷地域福祉事業所では今年度、生活困窮者の支援の為に越谷市内で独自に食糧を集めるフードドライブ活動を２回実施致しました。地域との連携の為に参加をしている「越谷市民活動支援センターの日」に開催し、越谷市内の生活困窮者に対しての食糧支援のため、市民から食糧の提供をいただいています。

１回目は６月４日に開催し、３４人の方に提供いただき、品数８１品、総量３９kgという結果でした。また、２回目を９月１１日に開催、２３人の方より、品数 73 品、総量６８.９kgの食糧を提供していただきました。

２度の開催を通して市民の皆さんの熱い思いを感じています。今後も、より多くの方に協力していただけるよう、周知活動を進めていきたいと思っています。

栃　木　「チャリティーウォーク」炊き出し支援活動！

10 月 2 日、市民会議とちぎは、毎年フードバンクとちぎボランティアネットワークがフードバンク活動の支援をするために開催している「チャリティーウオーク」の炊き出し支援に行ってきました。このイベントは参加者が２日間かけ宇都宮から日光をめざして（56.7ｋｍ）歩くというイベントです。

日光いろは坂の登り口前の休憩所に設けられた特設テントにて混ぜご飯、野菜たっぷりのみそ汁を振舞いました。市民会議とちぎは炊き出し支援の他、フードドライブを随時行っており、集まった食品を日光の NPO 法人だいじょうぶに届けるなど精力的に活動を続けています。【問合せ】市民会議とちぎ事務局 028-666-6464

共生型ケアに取り組む 富山型デイサービスを見学 地域福祉ＰＪ合宿

北関東事業本部地域福祉事業所&社会連帯北関東地方委員会は高齢者介護の枠を越えて共生型ケアを取り組んでいる富山型デイサービス「このゆびとーまれ」、ワーカーズコープ「大空と大地のぽぴー村」の実践や「コミニュティハウスひとのま」の居場所づくりの実践を交流し学び事業所の共生ケア、居場所づくりに向かう足がかりにしようと研修合宿を 9 月 24 日～26 日に行い、31 名の人が参加しました。

「富山型」の共生型デイサービス
「このゆびとーまれ」と惣万佳代子代表

1 日目はデイサービスこの「ゆびとーまれ」を見学。閑静な住宅地の中に、道を挟んで高齢者、子ども、障がい者が同じ時を過ごす施設が 2 か所。スケジュールで利用者を促す、日々の介護の在り方とは大違い、この施設では認知症の高齢者が子供の面倒を見ていたり、昼寝をしている人、部屋を駆け回っている障がいのある子、一人一人が思い思いの時間を過ごしていました。誰が利用者で誰がスタッフかもわからない、大家族のような空間を醸し出しています。

見学の後は代表の惣万佳代子さんを講師に学習会。「このゆびとーまれ」を創った経緯は年齢や障害の有無を問わず利用できるデイサービスの必要性を感じた富山県赤十字病院を退職した看護師 3 人の強い思いから始まり「誰もが、地域で、ともに暮らす」という理念を掲げ活動。活動の中で地域の人に一杯迷惑をかけ嫌がられたが、迷惑をかけることはいけないことではなく、結果的には迷惑をかけた地域の人のためになった実践を語られました。年齢や障害に関係なく誰もが地域で暮らして行くためには地域を変えていくことということが大切であるということを学びました。

300 円で誰もが利用できるハウスと
「大空と大地のぽぴー村」

2 日目は、「大空と大地のぽぴー村」の見学と看取りの取り組みと白ヤギの村構想のお話と地域の茶の間「庄東の家」の見学、人と人との「間」繋ぎ関係性を広げる場としての「コミュニティハウスひとのま」を見学しました。

宮崎さんの看取りに対する深い思いと実践と、ぽぴー村の近隣の家を購入「庄東の家」とネーミングし、地域のたまり場に活用。「コミュニティハウスひとのま」は困窮者、引きこもり、刑務所帰りの人、不登校の子たちが来たい時は 300 円で気軽に利用できるハウス。このような場所が地域には必要だと感じました。

今回の合宿は地域福祉事業所&社会連帯委員会がこれから取り組もうとしている「共生型ケア」「居場所づくり」地域づくりに参考になり実りあるものとなりました。惣万さん、宮崎さんの誰も排除しない包摂した社会づくりに対する熱い思いに触れ、共生型ケアの必要性を強く感じました。

（記　横倉しず代）

庄東の家で記念撮影

埼玉北部エリアの取り組み

埼玉北部農事業 PJ× さいたまフロンティアネットワーク 田んぼ 2016 稲刈り開催！

埼玉北部エリアでは主に社会連帯活動費を利用して、深谷とうふ工房で使用する大豆の栽培や養蜂を深谷市本田地域で行っています。今年は（一社）さいたまフロンティアネットワーク（旧さいたま労協クラブ・以下ＳＦＮ）とコラボレーションし、無農薬・有機栽培にこだわった米作り（約１反）に挑戦。10 月 19 日、無事に収穫を迎えました。

地域の事業所から応援に駆けつけてくれた組合員の方や、深谷若者サポートステーションとジョブセンター熊谷では日々の支援プログラムの中に稲刈りを取り入れたことで利用者のみなさんも参加。ＳＦＮからは内野富夫代表理事と佐藤一平理事（（株）環境流通システム）も参加し、総勢 22 名で稲刈りスタート！途中、だんらん上柴の利用者のみなさんが見学に訪れるなど、多数の方の応援がありました。田んぼを管理してくださった黒田さん（元エリアマネージャー）も、手刈りでその日のうちに作業を終わるのか不安だったようですが、日が暮れる直前にはざ掛けまで終わらせることができ安堵したようです（でも翌日、即席のはざ掛け台が一部壊れたとのこと・苦笑）。

これから 3 週間の自然乾燥の後、脱穀、籾摺りとなります。ちょうど１ヶ月後の 11 月 19 日 10:30 より深谷ベース（JR 深谷駅徒歩 10 分ほど）にて、北関東事業本部循環型産業 PJ の芋煮会とともに収穫祭（参加費 500 円）を行います。ぜひみなさん、お気軽にご参加ください！

埼玉北部協同集会開催 『「共に生きる・共に働く」市民が創るまちづくり』

埼玉北部エリアでは 10 月 15 日、北関東事業本部内では今年度のトップを切って協同集会を開催。晴天の秋空に恵まれるなか、午前中はエリア内の事業所見学バスツアー、午後には記念講演＆地域の達人によるパネルディスカッションを行いました。

午前中のバスツアーは“仕事おこしの元祖”深谷とうふ工房から出発し、深谷地域福祉事業所だんらんの見学のあとは愛彩のランチを楽しんで、午後のイベントに合流しました。

午後の記念講演は労協でもおなじみ、コモンズ代表・ジャーナリストの大江正章氏。軽快な語り口調で 149 名の観客を引き込みながら、持続可能な地域づくりに不可欠な市民の力と、全国各地で広がっているさまざまな取り組みについて講演。

パネルディスカッションは『まちづくり』をテーマに、コーディネーターを藤田徹代表理事、コメンテーターを前述の大江氏が務め、様々な地域の達人をパネラーに迎えて行いました。“もやし作りの達人”飯塚雅俊氏（有限会社飯塚商店代表取締役）には、もやし作りに対する情熱から通じた地域づくりに対する熱い思いを、“商店街活性化の達人”石川克正氏（きんとう旅館代表社員・深谷市議）には寂れていく商店街の活性化をはかった『宿場まつり』における“女性パワー”の重要性を、“障害者就労支援の達人”尾島茂氏（おにっこハウス代表）には障がいがあってもなくてもいっしょに働く関係をつくることの大切さを、“高齢・障害者介護支援の達人”竹田恭子氏（深谷南地域福祉事業所だんらん上柴所長）にはその人をとりまくインフォーマルな関係にも目を向けることの重要性といった話を聞き、あらためて私たち自身が地域の再生・継続に力を注ぐ必要性を感じる内容となりました。

！危機管理室コラム！始まります

北関東事業本部では、危機管理室が設置されています。事故等トラブルへの対処を図ると共に現場・事業所の運営が円滑に行われ、「よい仕事」を推進できるよう心がけています。このコーナーでは危機管理に役立つ情報を次号よりお届けいたします!(室長:春山幸雄)

編集後記

幾つか試行錯誤を重ねて来た当「北関東かわら版」ですが、今号から会議に齋藤本部長も顔を出してくださってます。３県の現場をつなぐ役割を果たせる様、編集部一同頑張ってまいりますし、皆さんからの記事もお待ちしています。（み）

ワーカーズコープ北関東事業本部
http://www.workers-coop.com/honbu/kitakanto/